

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 大釜広貴さん（花巻市）

取材担当 中部農業改良普及センター 今野彩香

花巻市で果樹栽培に取り組む大釜広貴さんを紹介します。

大釜さんは、実家がりんご農家で、幼い頃から摘葉や収穫作業を手伝いながら育ちました。自然とりんごに親しむ中で、りんごへの深い愛着と農業への思いが育まれ、りんご農家になる道を選びました。花巻市内の果樹園で3年間研修を受けた後、「実家とは別に自分の力で挑戦したい」という思いから、令和4年に独立し、自身の農業経営を開始しました。様々な品種を取り入れながら園地の若返りも進めており、栽培面積は112aからスタートし、現在は360aにまで拡大しています。

収穫したりんごは蔵に入れて保管していましたが、常温に置いておくと果実が軟らかくなりやすく、冬場はストーブを焚く必要があるなど、品質維持に加え、費用・労力面でも課題がありました。

そこで、令和6年度に「新規就農スタートアップ支援事業」を活用し、プレハブ冷蔵庫一式を導入しました。冷蔵庫の導入後は、収穫した果実に品質低下を防ぐ効果のあるスマートフレッシュ処理と、冷蔵庫での保管を組み合わせることで鮮度を長期間保ち、4月にも産直へりんごを出荷できるようになりました。出荷したりんごはすぐに売り切れになるなど、安定した収入にもつながっています。

今後は、現在の経営を維持しながら、SNS等を活用して直売所のPR（Instagram：大釜りんご園で検索）や加工品の製造・販売にも力を入れていきたいとのこと。今年度は、花巻市農村青年クラブの副会長にも就任したことから、花巻市のりんご生産者として、地域農業を盛り上げる存在として、ますますの活躍が期待されます。



導入したプレハブ冷蔵庫



地元でりんご栽培をしている大釜さん